

## 補助事業公募審査会二次審査結果及び審査委員附帯意見

### 1 二次審査（公開プレゼンテーション審査）の状況

一次審査（書類審査）の採点結果が 28.00 点未満の 15 件、9,670 千円について、補助金交付の採否を決定するために申請団体による公開プレゼンテーションを実施した。

### 2 審査委員の審査結果（一覧表は別紙のとおり）

新居浜市補助事業公募審査会審査委員 8 名による審査を実施した。

審査結果は次のとおり。

#### 二次審査対象内訳

50.67 点以上のもの	9 件	(5,060 千円)	・ ① 補助金財源枠内
50.17 点のもの	1 件	(1,750 千円)	・ ② ボーダーライン上
49.83 点未満のもの	5 件	(2,860 千円)	・ ③
合 計	15 件	(9,670 千円)	

- ① 二次審査の補助金財源枠 6,696 千円内に入るのは 50.67 点以上の 9 件、5,060 千円である。
- ② 50.17 点の 1 件、1,750 千円については、ボーダーライン上となるが、昨年度はボーダーラインについては採択したことから、今年度も採択とする。（審査会において了承済み、この場合は補助金財源枠を 114 千円超過する）
- ③ 50.17 点未満の 5 件については、補助金財源枠外となるが、一次審査採択決定分、①及び②の事業について予算査定による補助金額の減額等があった場合は、補助金財源枠に応じて採択を行う。（審査会において了承済み）

### 3 二次審査（公開プレゼンテーション審査）に係る審査会附帯意見

- プレゼンテーションを聞いて評価が大きく変わることがなかった。書類をもとにいかにより適切に採点をするかにもっと集中しなくてはならないと感じた。
- 行政が積極的に関与すべき分野の事業や、国の推進事業、近隣市町村などとの足並みをそろえなければならない事業などは、認定補助金にした方がいいと思う。

- 補助を受けるのではなく、自分達でやってほしい事業もいくらかあった。なぜ補助金が必要なのかという説明をもう少し積極的に説明していただきたい。
- 審査員がどのような観点で聞いているかということをもっと十分理解されずにプレゼンをされている感じがする。また、委員の方が質問をしてもそれに対する回答がなかったり、質問の趣旨に対する回答が得られなかったのが残念だった。
- 補助金申請を出す必要がないと感じる事業があった。その一方、「少年剣道大会開催事業」は主催が新居浜市で、3,000人が新居浜に来るという事業であり、経済効果もある。このような事業は市が認定する形を取られた方がよい。市としても利益を生むという方向で考えられた方がよいと感じた。
- 審査会に出す必要がないと感じる事業がある。審査会に出す前にもある程度精査をする工夫をしていただきたい。
- 事業に対する思い入れはわかるが、補助事業の審査会であるので最終的には予算とか補助依存率とかに集約される。しかし、繰越金があるのに補助金を申請されたり、補助金をもらってやっと事業ができるというのはどうかと思う。新居浜市が採用している補助金公募のシステムは先駆的だったはずだが、運用が先駆的でなくなってはダメである。もう少しシステム自体を市民の方々にアナウンスしていく必要があると感じた。

以 上

写真

